

# 日本ビジネス実務学会 中国・四国ブロック会報 第35号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,  
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 35

発行日: 2022年3月31日  
編集責任者: 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)  
事務局: 〒770-8514 徳島市山城町西浜坊示 180  
URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

## ブロックリーダーより 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)



この文章を書いているのは2021年度のブロック研究会から半年後の2022年3月ですが、コロナ禍以降、私たちの世界は、さまざまなことに目まぐるしく巻き込まれています。新型コロナウイルスのオミクロン株という言葉が1月頃からしょっちゅう登場するようになり、2月からは、チェルノブイリ原発事故以来、久しぶりに耳にすることとなったウクライナ(ロシアのウクライナ侵攻)のニュースを毎日見ることになりました。

私は英語教員なので、オミクロン(Omicron)が主にアメリカ標準英語で「アーマ・クローン」、イギリス標準英語で「ウツ・マイクロン」のような発音になるため、日本語話者にとってややこしい一方、チェルノブイリ(Chernobyl)やウクライナ(Ukraine)が英語のニュースで「チャ・ノーウビル」や「ユー・クレイン」のような発音で、日本人にとってはこれまた認識しづらいものであることに注意が行きがちでしたが、特に後者のウクライナ情勢によって、従来から教室で教えてきたアングロ・サクソン系文化(主にアメリカ・イギリス)やラテン文化(主に西ヨーロッパ)に加え、ロシアには巨大なスラブ系文化が存在していることを忘れてはいけなく、と再認識させられました。

我々日本人から見ると、アメリカ人もロシア人も、ウクライナ人も、全て西洋人のようなイメージですが、スラブ文化圏というものは、歴史的に見ても文化的に見ても、いわゆる典型的なヨーロッパとはやや性質の異なったものであり、ある場合には考え方の妥協を許さない、強烈な対立を生む要素が存在するものであることを念頭に置かなくてはなりません。アメリカ人的な視点から考えている日本人評論家の多くが「まさかロシアが戦争までには踏み切らないだろう」と、当初主張していましたが、それが全く外れているのは今日知るところです。我々教員も、テレビの評論家が予想し得ないことを予測していかなければならない、大変な時代になっているのです。

## ブロック研究会・当番校を代表して 金岡敬子(山陽女子短期大学)



第38回中国・四国ブロック研究会は、2021年8月28日(土)に、山陽女子短期大学を当番校として開催されました。山陽女子短期大学は、広島県廿日市、宮島の対岸に位置する小高い丘の上であり、天候が良ければ教室から宮島が一望できます。今年こそは対面で研究会を開催し、日頃お目にかかれなかった先生方と世界遺産宮島にご案内して、情報交換会が出来ればと楽しみにしておりましたが、昨年を引き続き、遠隔での研究会開催となりました。

研究会当日は、規模を縮小してZoom形式で3件の研究発表・3大学4名の学生プレゼン大会を実施しました。学生たちは、コロナ禍での困難な状況にも関わらず、専門分野での学びや工夫、体験したことをしっかりと発表してくれました。この困難な状況の中、ご参加・ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。早くコロナが終息し、対面での開催を楽しみにしております。

日本ビジネス実務学会  
第 38 回 中国・四国ブロック研究会 プログラム

(当番校：山陽女子短期大学)

|   |  |
|---|--|
| 【2021年8月28日(土)】                               |  |
| 13:20～  | 待 機 (ホスト・ゲスト接続タイム)   |
| 13:30～  | 開会の挨拶・当番校挨拶・事務連絡      ブロックリーダー 堀口誠信                                |
| 第 16 回学生プレゼンテーション大会      (発表：5分)      司会：金岡敬子 |  |
| 13:40～  | ①「ヘルスケアの専門分野としての音楽療法」<br>徳島文理大学・音楽学部音楽学科・音楽療法コース 2年 池田理美           |
| 13:50～  | ②「聞こえない・聞こえづらい人のためにできること」<br>山陽女子短期大学・医療事務情報コース 2年 小松尾瞳            |
| 14:00～  | ③「コロナ禍での岡山県久米南町下鞆地区での地域活性化」<br>中国学園大学・国際教養学科 3年 岡菜月                |
| 14:10～  | ④「ゼミ活動で YouTuber になってみて」<br>中国学園大学・国際教養学科 3年 三口恵里花                 |
| 14:20～  | 休 憩 (15分)  |
| 研究発表 (発表 15分・質疑応答 5分)      司会：金岡敬子            |  |
| 14:35～  | ①「PBL とゼミ教育に YouTube を導入しての効果検証」<br>中国学園大学 佐々木公之                   |
| 14:55～  | ②「秘書技能検定の問題を学ばせる事により育成できる能力<br>—高校生のアンケート結果より—」<br>岡山県立新見高等学校 名和晋也 |
| 15:15～  | ③「私大教員の労働環境と教員にとっての労働に関する一考察<br>—働き方改革を視野に—」<br>四條畷学園大学 岡崎聡        |
| 15:35～  | 閉会の挨拶  |

## 研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、研究領域(→で表示)、発表概要の順

### 1. 佐々木公之(中国学園大学)

#### PBLとゼミ教育にYouTubeを導入しての効果検証 →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

##### 1. 概要

若者のスマートフォンの利用時間は、年々伸びています。TIME&SPACE 社の調査によれば、18～22歳の大学生世代は、1日のスマートフォン利用時間が「5時間以上」という回答が22.7%でもっとも多く、次で「1時間以上～2時間未満」が18%、「2時間以上～3時間未満」16.5%と、過半数が1日2時間以上はスマートフォンを使用しているという結果となっており、若者のスマートフォン依存度の高さが分かります。スマートフォン利用の用途としては、「SNS やアプリなどを利用したコミュニケーション」が72.5%、続いて「動画視聴」が66.1%と、スマートフォンのネット利用の3人に2人が動画視聴となっています。多くの若者がスマートフォンを利用して動画を視聴していることが分かります。

発表者は、コロナ禍により宿泊体験やフィールドワーク調査など学外での学びが制限される中で、2020年度より、動画共有サイトYouTubeをゼミナール教育(以下、ゼミ教育)、PBL(課題解決型学習)に積極的に取り入れています。学生たちが主体的に取り組むことができ、また、学生たち自らがYouTubeの番組制作を行うことで、社会人基礎力の向上が図れるものと思いゼミ教育に導入しました。

本研究発表では、はじめに、①2020年6月より、岡山県の中山間地域の一つである久米南町下鞆地区でのPBLにYouTubeを取り入れた事例、②学生たちがアイデアを出し合いYouTubeを利用して大学の課題解決に取り組んだ事例、③読書感想にYouTubeを取り入れた学習事例を紹介します。

次に、これらのYouTubeの企画、撮影、編集などを行った学生を対象に実施した、アンケート調査の結果について発表します。

アンケート調査の内容は、

- YouTubeに出演・動画制作に以前から興味があったか。
- YouTubeに取り組んでよかったと思うことは何か。
- YouTube動画を制作するにあたって気をつけたことは何か。
- YouTube制作で将来に活かせると思ったことは何か。
- YouTube制作での悩み・不満は何か。
- YouTubeの取り組みについて家族・友人などの反響・感想はどうだったか。



アンケートの結果では、ほとんどの学生がゼミ教育前は、YouTubeの企画・出演には興味がなかったと回答していました。しかなしながら、いざYouTube番組制作に取り組んでみると、リーダーシップ、創造力、チームワーク、コミュニケーション力など多くの学びがあり、「取り組んでよかった」の回答がほとんどでした。さらに、ゼミ教育にYouTubeを導入することで、学生の家族から「大学での子どもたち学びが良く分かる」「毎回、動画がアップされるのが楽しみ」といったポジティブな意見が多いことが分かりました。

一方で、YouTube制作での悩み・不満として、「内向的な学生へのストレス」「作品が自己満足になっていなかったか」などの不満と不安を抱えていることが分かりました。結果、YouTubeをゼミ教育に導入することは、学生の社会人基礎力向上に限らず、教育の満足度向上など大きな可能性を秘めているということが分かりました。

## 2. 名和晋也(岡山県立新見高校)

### 秘書技能検定の問題を学ばせる事により育成できる能力—高校生のアンケート結果より—

#### →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



#### 1. 概要

2020年度、A高校の3年生が商業科目「ビジネス実務」で、秘書検定の問題に取り組み学んだ。授業で秘書検定の問題を学ばせるのは、卒業して進学や就職をするとき、マナーを知らせると社会的伸長を円滑に行えるようにできる。A高校では1週間に1回、校内販売を行い、仕入れから販売、決算まで一連の作業を行っている。実際に販売する事により、「どうすればより良く売れるのか」を自ら考え出した。そのため授業では実際にあった事例をケーススタディとしてブレインストーミング法で実際に近い授業を行い、ビジネスパーソンとしての自覚を持たせるようにした。奈須(2015)は、「インターンシップや販売実習などのオーセンティックな実践を通して、アクティブ(能動的・協働的)に加えて、学びの文脈を本物にし、現実の社会に存在する本物の実践に可能な限り近づけて学びをデザインすることが重要である。」と指摘している。授業がもたらした効果の一端を知るため7月および1月に一人5~10分程度のインタビュー調査を実施した。秘書検定の問題を学ぶことで、何が自らを成長させたのか検証を行う。

#### 2. 調査内容

次にあげる3問の簡単な調査を実施した。

- 1) ビジネス実務の授業を受けて、将来、自分の仕事に役立つと思いますか
- 2) ビジネス実務の授業を学ぶ前と比べるとビジネスマナーやビジネスパーソン(社会人、仕事をする人)としての見方・考え方等、自分がこの授業をとおして成長したと思う事がありますか
- 3) このビジネス実務の授業をとおして、自分が変わったと思うきっかけは何でしょうか、小さなことでも構いませんので自由に話してください

#### 3. 調査結果および考察

生徒は、「ビジネス実務」の授業は実際に社会に出てすぐに役立つと判断している。それは、今迄グループで問題を解くことを意識していなかったが、グループで様々な考えを尊重しながら多くの答えを出し、発表をするなどのプロセスを新鮮に感じたからである。加えて、そこに社会人になるために必要なマナーをメタ認知させ、「社会で必要な基礎的知識」を楽しく学べたのである。

生徒のインタビューでは「みんな考えたりして、わかりやすく答えを発表できるようになった」「お客様や上司の気持ちを考えるようになった」等の回答を得た。生徒たちは、「ビジネス実務」の授業で秘書検定の問題を用いて、社会人に必要な基礎的なビジネスマナーを学べた。生徒自らが進路に向かい自信を持ち、変化したと考える。

### 3. 岡崎 聡(四條畷学園大学)

#### 「私大教員の労働環境と教員にとっての労働に関する一考察～働き方改革を視野に～」

##### →【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス環境とビジネス実務



私立大学では、2019 年度に個性豊かな活力ある私学づくりを目的として、経常費補助金が見直されました。そこでは、大学運営に必要不可欠な教育研究に関する経費としての性質を持つ「一般補助」において、定員割れに対する助成減額率が強化されるなどの改定が行われました。入学定員未充足の私立大学（学部）が年々増加している中での改定であることに加え、経常収入に対する教育研究費の割合を減少させている大学、基本金組入前年度収支差額がマイナスとなっている大学が散見され、その数は年々増加傾向にあるように思われます。私立大学を取り巻く環境は決して順風満帆とは言えません。このような状況下で、経営を担う理事会が支出の大きな割合を占める人件費の抑制に力点を置くなど、大学に勤務する多くの教職員の労働環境も、これまで以上に厳しいものとなっています。

一方「一億総活躍社会」実現に向けた取り組みとして、働く人々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分自身で選択することが出来るようにとの理念の下、政府による「働き方改革」が立ち上がりました。2016 年には「働き方改革実現会議」が発足し、①非正規雇用者の処遇改善②賃上げと労働生産性向上③長時間労働の是正④柔軟な働き方がしやすい環境整備⑤病気の治療、子育て、介護等と仕事の両立、障がい者就労の推進⑥外国人材の受入れ⑦女性・若者が活躍しやすい環境整備、以上の7項目が改革内容に挙げられました。2017 年には働き方改革実行計画が決定公表され、同じく 2017 年「学校における働き方改革に関する緊急対策」が取りまとめられ、翌 2018 年「働き方改革法案」が成立し 2019 年施行されました。このような中、私立大学に勤務する教員は、これまで同様の労働環境ではなくなりつつあります。

本研究では、政府主導の働き方改革によって、労働環境の改善の名のもとに行われた改革が、私立大学の特に教員に対してどの程度有効に機能しているのかを、改革の3本柱ともいえる「長時間労働の是正」「非正規と正規雇用者の格差是正」「労働人口の不足（高齢者の就労促進）」を主対象とし、近畿2府4県の私立大学を中心にアンケート調査を実施し、その回答を基に考察しました。

特に、「長時間労働の是正」項目については、その実効性を高めるために、「労働時間の把握」が必要不可欠とされています。その際、大学教員の業務（労働）範囲とは、といった課題が改めて浮き彫りになってきました。教員が日常行っている業務の中には①授業②会議③学内行政④入試関連⑤研究⑥授業準備⑦研究上の知見に基づく社会貢献活動等があるが、それらすべてを労働と捉えるべきなのか等を先行研究や事例研究とともに、アンケート調査での回答を併せて考察を試みました。

## 学生プレゼンテーション大会 発表内容一覧

### 1. 徳島文理大学・音楽学部音楽学科・音楽療法コース 2年 池田理美

#### 「ヘルスケアの専門分野としての音楽療法」

音楽療法という言葉聞いてどのようなことを思い浮かべますか？私は音楽療法コースで学んでおり、実際の内容が、一般の人がイメージする「音楽療法」と、やや異なっていることに気づきました。この違いを、音楽療法先進国といわれるアメリカにおける音楽療法協会 (AMTA: American Music Therapy Association) による定義を使って説明したいと思います。また、ケーススタディを用いて、ヘルスケアの専門職として医療・福祉・教育の分野で貢献する音楽療法士の仕事を紹介します。

(指導者: 徳島文理大学短期大学部・教授・堀口誠信)

### 2. 山陽女子短期大学・医療事務情報コース 2年 小松尾瞳

#### 「聞こえない・聞こえづらい人のためにできること」



私は、将来医療の現場で働く夢を持って学んでいます。現場では、話すことが困難な患者さんや聞こえない、聞こえづらい患者さんと接する機会もあります。そこで、医療の知識はもちろん患者さんに「わかりやすく正しく伝える」ことを目的に、要約筆記や手話の勉強にも力を入れています。コミュニケーションの担い手としても医療の現場で頼りにされる医療事務員になる事を目指して、現在学んでいる聴覚異常の原因による対処法も説明して、学んだことを今後医療の現場でどのように活かしたいかについて

発表します。

(指導者: 山陽女子短期大学・人間生活学科・教授・金岡敬子)

### 3. 中国学園大学・国際教養学科 3年 岡菜月

#### 「コロナ禍での岡山県久米南町下榎地区での地域活性化」

昨年より、先輩の祖父母が住んでいた村(久米南町下榎地区)の関係人口を増やすために、住民の方々と一緒に稲刈りや野菜収穫や、YouTube を活用して情報発信を行ってきました。コロナ禍で、多くのことが制限される中で、学生たちで力を合わせて活動しました。今回の発表では、「どのような活動を行ってきたいのか」「住民の方からこの活動をどう評価されたのか」「活動を通じてどのような学びがあったのか」、また、「今後、どのような取り組みを行っていくか」について発表したいと思います



(指導者: 中国学園大学・国際教養学科・准教授・佐々木公之)

### 4. 中国学園大学・国際教養学科 3年 三口恵里花

#### 「ゼミ活動で YouTuber になってみて」



昨年より、私が所属する佐々木ゼミでは、中山間地域の地域活性化、大学のオープンキャンパス紹介動画、また、読んだ本の感想などを自分自身が YouTuber となり動画撮影・編集して活動しています。コンテンツの企画、動画撮影、また、編集時にどうすれば魅力的な作品になるかなどを、学生たちでアイデアを出し合い制作しています。今回、自分自身がはじめて YouTuber となってみた感想と難しさ、また、家族や友達の反響、そして、YouTube 動画制作を通じての学びについて発表したいと思います。

(指導者: 中国学園大学・国際教養学科・准教授・佐々木公之)

## 総会概要

### 1号議案：第40回全国大会・理事会報告

- 1) 第40回全国大会(北九州大学・遠隔大会)・担当:九州・沖縄ブロック。  
詳細は本学会 HP をご覧ください。

### 2号議案：2020年度事業報告・収支決算

- 1) 2020年度ブロック活動報告  
第37回ブロック研究会の開催  
詳細(開催地・日付・参加人数など)は『日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会報』第34号  
をご覧ください(本学会 HP より PDF でダウンロードできます。)
- 2) ブロック研究会と総会の開催  
遠隔 Zoom 方式のため、当日の集合は研究会のみで、総会は運営委員によって承認された内容  
を後日、会員にメールで通達。
- 3) ブロック研究助成の募集
- 4) 第15回学生プレゼンテーション大会の実施(研究会と同日)  
詳細(開催地・日付・参加人数など)は『日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会報』第34号  
をご覧ください(本学会 HP より PDF でダウンロードできます。)
- 5) 運営委員会の開催:今回、全てメール審議となりました。運営委員6人に加え、アドバイザーと  
して佃昌道先生、桐木陽子先生の2名からも意見を伺いました。  
2021年に入ってからメール審議は以下の通り:  
第1回・2021年6月30日(水):ブロック研究会案内第1報・第2報のスケジュール調整  
第2回・2021年7月15日(木):Zoom 研究会の開催に際しての調整  
第3回・8月17日(火):次年度のブロック研究会開催地について調整  
新しい企画(ブロック研究会による研究助成について意見をきく  
第4回・8月20日(金):プログラムの調整  
第5回・8月26日(木):学生プレゼンリハーサルなどの調整
- 6) 2020年度・収支決算書  
研究会に先立ち、2021年8月27日(金)に出席予定者にメール審議の結果、承認されました。

### 3号議案：2021年度事業計画・予算

- 1) 2021年度ブロック活動計画  
第38回ブロック研究会の開催(Zoom 遠隔研究会)  
開催日:2021年8月28日(土)  
会場:山陽女子短期大学
- 2) ブロック研究会と総会の開催  
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 3) ブロック会報・第35号の発行。本学会 HP より PDF でダウンロード可能。会員全員に通達。
- 4) ブロック研究助成の募集を通知  
詳細はブロック研究会終了直後にブロック会員全員にメールで通達。
- 5) 第16回学生プレゼンテーション大会の実施  
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 6) 運営委員会開催予定  
第1回 2021年8月28日(土)

### 4号議案：ブロック運営委員について(2021年度メンバーは去年度と同様で、次の通り)

- リーダー:堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)  
サブリーダー:関由佳利(高松短期大学)  
運営委員:吉田順子(広島女学院大学)  
運営委員:加渡いつみ(四国大学短期大学部)  
運営委員:佐々木公之(中国学園大学)  
運営委員:佐藤麻衣(高松短期大学)

### 5号議案：ブロック研究助成の募集を通知

- 詳細はブロック研究会終了直後にブロック会員全員にメールで通達。  
ブロック会員による活動の活性化、参加者増加、研究者に課せられた昨今の厳しい条件(競争資金  
を獲得しないと見えない、グループ研究が奨励される、など)の解決のため、中国・四国ブロックより研  
究助成を出すことにしました。

- 6号議案: 次回ブロック研究会・学生プレゼン大会の開催様式と日程について  
運営委員の方からブロック会員が8月に集合するのはなかなか難しい(オープンキャンパス・保護者会・高校生への公開授業・各種委員会など)ことが考えられるため、また、学生プレゼンは短大生のことを考慮すると3月にしにくいことが考えられるため、8月に学生プレゼンのみを遠隔で行い、2月か3月くらいに研究会のみを会員だけで行う、という提案がありました。このことの是非と日程の希望をウェブアンケート形式で会員に投げかけてみることになりました。(従来型のままという選択肢もあります。)結果が出次第、本学会HPで通達し、ブロック会員全員にメール通達します。  
従来通りの案としては、次回会場を広島市・安田女子大学、対面方式で2022年8月27(土)、28(日)を予定しております。

また、研究会よりハードルの低い「交流会」をオンラインで定期的に行き、実務家で研究パートナーを探している会員の手助けになるような企画も考え、ウェブアンケートをとっています。

- 7号議案: 次回全国大会の開催校・日程について  
担当は中部ブロック・愛知東邦大学でZoom遠隔方式。詳細は本学会HPをご覧ください。